

先進的 窓リノベ 2026事業



先進的窓リノベ2026事業は、2050年ネット・ゼロの実現や2030年度の温室効果ガス削減目標の達成に向けて、断熱性能の高い窓の導入を支援し、住宅の脱炭素化とウェルビーイング／高い生活の質の実現に貢献するとともに、先進的な断熱窓の導入加速により、価格低減による産業競争力強化・経済成長と温室効果ガスの排出削減を共に実現することを目的とする事業です。

本事業について

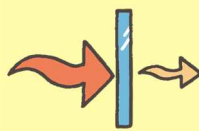
住宅の窓の断熱性能を高めた省エネルギー性能の高い住宅を普及させることで、エネルギー価格高騰への対応や、家庭からのCO₂排出量削減へ貢献します。



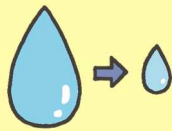
エネルギー価格高騰への対応



CO₂排出量削減への貢献



熱を伝えにくい



結露を減らす



住宅を
長持ちさせる



「ヒートショック」
等のリスクを低減



健康面への
メリットも期待

住宅の断熱化による健康への好影響として、健康診断結果の成績向上、睡眠の質向上、子供の喘息防止、入浴事故（ヒートショック等）リスクの低減が期待できます。

<参考>

省エネ住宅で節約できる年間の光熱費、
住宅の断熱化による健康への好影響



省エネで健康・快適な住まいづくりを！



開口部の重要性

住宅の断熱性能を高めるためには、冬は家の中の暖かい空気や熱を外に逃がさない、夏は外の熱い空気や熱を家の中に入れないことが有効です。

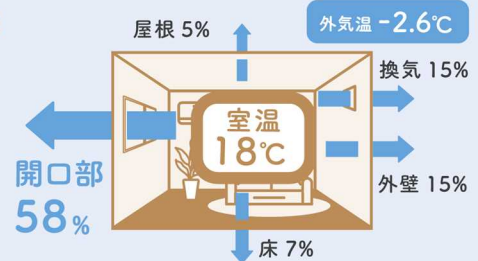
特に、窓等の開口部における熱の流入は住宅全体の6～7割に及び、大きな割合を占めるとされています。

これは日本の住宅の窓の約7割が、熱の流入量が大きい「アルミサッシ＋単層（1枚）ガラス」の組み合わせであることが原因とされています。

住宅の窓を高断熱の窓に改修することで、高い省エネ効果が期待できます。

冬の暖房時の熱が
開口部 から
流失する割合

58%



夏の冷房時（昼）に
開口部 から
熱が入る割合

73%

